

災害応急対策（防災拠点） 検討部会

第5回の主な意見

令和7年1月30日
奈良県防災統括室

第5回の主な意見

■ アクセス整理

	主な意見
1	中核拠点のアクセス整理について、中核拠点からの動線は、受援と応援の2系統がある。受援については、県内への被災地へ、応援については、県外への被災地に向かうことになるため、その点を整理すればさらにわかりやすくなる。
2	(南部中核拠点の)東西のエリアを結ぶ既設の橋梁は老朽化しており、落橋の不安もあるため、早期に橋梁点検を行うとともに、西側のエリアへの進入路整備の検討も合わせて行うべき。
3	(南部中核拠点の)将来的に西エリアを整備する場合、橋のリスクを考えると、農免道路から西エリアへの進入道路の整備と西エリアの整備を同時期で考えないと、南部中核拠点の中で西エリアが孤立してしまうかもしれない。
4	南部中核拠点のアクセス道路として、農免道路や現道をうまく活用することにより、国道24号から進入する経路をひとつでも多く確保していただきたい。

■ 非常用電源

	主な意見
1	停電時におけるヘリコプターの離着陸を想定し、両中核拠点には着陸場所は隣接する建物に照明を照らしていただきたいので、非常用電源の設置をお願いします。
2	可搬型蓄電池は将来的に技術が進み、価格が低下するなどの影響があるかもしれない。現状の安価な製品には、安全性に懸念がある。
3	停電に備え、多様な非常用電源確保の手段を確保することが重要な視点である。可搬型蓄電池は分散配置することができ、代替性担保の観点からも他の手段を含めた整理を検討いただきたい。

■ その他

	主な意見
1	奈良県地域防災計画の災害応急対策計画は、中核拠点が無い時点での計画であるため、今回、中核拠点を設置することで、従来の地域防災計画がさらにこのように良くなる、運用しやすくなることをまとめれば、県民にその意義と整備を進める必要性を理解いただけるのではないかと。
2	北部中核拠点については、前回の検討部会の後、新アリーナの候補地として、新たな候補地(医大新駅西側)が加えられたが、当該地となった場合でも問題はない。
3	広域防災拠点の受入手順について、物資はもちろん、限られた人員をどう確実に配置するかを検討する必要がある。
4	車両に搭載している様々な機材を操作するため、フラットな空間は必要である。